

令和3年度

# 宜野湾市の教育



GIGA スクール構想「授業開き」



ライブギノワン 2020（オンライン配信）



## 市章

市章は『ギノ』を図案化したもので「ギ」で躍進の翼を形どり、円で湾を表わし、協力の輪と平和を表わす。

1967(昭和 42)年 6 月制定

## 健康都市宣言

宜野湾市の全市民が明るく、美しく、豊かな環境の中で心身ともに健やかな合理的生活がいとなめる健康都市建設に市民の総力を結集し、その推進をはかるため宜野湾市を健康都市とすることを宣言する。

1964(昭和 39)年 7 月 1 日

## 健康都市建設市民の誓い

わたしたち宜野湾市民は健康都市宣言の本旨を高揚し、明るく、美しく、豊かな住みよい健康都市を建設するために、次の事項の実現に努力することを誓います。

### 推進目標

- 1 丈夫な体を育てましょう。
- 1 りっぱな市民になりましょう。
- 1 交通道徳を高めましょう。
- 1 暮しの向上をはかりましょう。
- 1 明るく美しいまちにしましょう。

## はじめに

経済や文化活動のグローバル化、高度情報化の進展、少子高齢社会や地域コミュニティの希薄化、子どもの貧困問題等、教育をめぐる環境が大きく変化する中で、一人一人がより豊かな人生をおくることのできる持続可能な社会を実現するためには、学校教育や社会教育等、教育行政の充実が、これまで以上に求められております。

このような中、宜野湾市教育委員会においては、「第二次宜野湾市教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）」を策定し、「学び合い、未来を切り拓く人材の育成」を基本理念に、「生きる力を育む“ひとづくり”」、「学校に関わる人たちが活動をとおしてつながる“学校づくり”」、「地域が学びをとおしてつながる“まちづくり”」の3つの基本方向に基づき、「学び」と「つながり」を視点に各施策を推進しております。今後とも、これまでの施策の点検・評価を行い、教育行政の効果的な推進に、より一層努めてまいります。

学校教育においては、「地域協働学校」いわゆるコミュニティ・スクールの運営を通して、地域と学校の連携協働体制の構築を図り、自主創造を生かした特色ある教育活動、地域とともにある学校づくりを推進してまいります。また、GIGA スクール構想に基づき整備した一人一台端末などの ICT を活用し、児童生徒一人一人に個別最適化された学びの実現に向けて取り組んでまいります。

学校施設については、全ての学校施設の耐震化を図るため、令和2年度に普天間小学校校舎増改築事業を開始いたしました。令和4年度の完成を目指し、引き続き取り組んでまいります。

文化行政については、その拠点となる市民会館や中央公民館の施設保全と機能強化に向けた改修を継続し、学びの支援や芸術文化、スポーツレクリエーション活動を推進してまいります。

教育の力が、地域社会の発展に大きな影響力を持つ歴史に学び、教育の「普遍性、時代性、地域性」の三つのスタンスで教育的環境の優位性を活かし、教育行政の充実に努めてまいります。

「宜野湾市の教育」は、教育行政、学校教育、教育施設等11項目に分けて編集しました。ご高覧ください、本市教育行政の推進にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

令和 3年 9月

宜野湾市教育委員会

教育長 知念 春美

## 目次

はじめに	
宜野湾市の位置と地勢	- 1 -
宜野湾市の沿革	- 1 -
<b>I 教育行政</b>	
1. 教育行政	- 2 -
2. 教育財政	- 19 -
3. 育英会事業	- 21 -
4. ぎのわん教育の日	- 23 -
<b>II 学校教育</b>	
1. 宜野湾市の学校教育	- 24 -
2. 学校教育状況	- 26 -
<b>III 教育施設</b>	
1. 基本方針	- 34 -
2. 施設配置図	- 34 -
3. 学校教育施設	- 35 -
4. 社会教育施設	- 36 -
5. 学校敷地の状況	- 37 -
6. 学校校舎の必要面積と保有 状況	- 38 -
7. 宜野湾市立学校施設の耐震化状況 集計表	- 39 -
<b>IV 学校給食</b>	
1. 基本方針	- 40 -
2. 重点目標	- 40 -
3. 機構図	- 41 -
4. 学校給食運営図	- 41 -
5. 食育への取組	- 42 -
6. 地産地消の取組	- 43 -
7. 学校給食における食物アレルギー の取組	- 43 -
8. 学校給食の栄養量	- 44 -

## V はごろも学習センター

1. 基本方針	- 45 -
2. 重点施策	- 45 -
3. 本年度の取組	- 46 -
4. 令和3年度研修係・管理係 年間事業計画	- 47 -
5. 宜野湾市教育情報化推進計画 構想図	- 48 -
6. 適応指導教室「若葉教室」の概要	- 49 -
7. 令和3年度 適応指導教室 「若葉教室」	- 51 -
8. 令和3年度支援係年間 事業計画	- 53 -
9. 令和2年度支援係年間 事業実績	- 57 -

## VI 社会教育

1. 基本方針	- 59 -
2. 重点施策	- 59 -
3. 令和2年度主な事業実績	- 59 -
4. 令和3年度社会教育係事業計画 .....	- 62 -

## VII 文化スポーツ振興

1-1. 基本方針（文化）	- 63 -
1-2. 令和2年度文化事業の実施	- 63 -
1-3. 令和2年度 宜野湾市民会館 管理運営状況	- 63 -
1-4. 令和2年度文化事業共催・後援等 .....	- 65 -
2-1. 基本方針（スポーツ）	- 66 -
2-2. 重点施策	- 65 -
2-3. 学校体育施設開放事業	- 66 -
2-4. 令和2年度実績	- 69 -
2-5. 令和2年度スポーツ少年団県外派遣 実績	- 70 -

2-6. 令和3年度事業計画（予定）  
 . . . . . - 70 -

VIII 中央公民館

1. 基本方針 . . . . . - 71 -  
 2. 運営方針 . . . . . - 72 -  
 3. 取組事項 . . . . . - 72 -  
 4. 令和2年度主な事業実績 . . - 72 -  
 5. 令和3年度事業計画 . . . . . - 81 -

IX 市民図書館

1. 基本方針 . . . . . - 83 -  
 2. 重点施策 . . . . . - 83 -  
 3. 管理・運営状況 . . . . . - 83 -  
 4. 利用者実績と目標 . . . . . - 84 -  
 5. 資料の整備状況 . . . . . - 85 -  
 6. 移動図書館活動状況 . . . . . - 86 -  
 7. 事業計画と活動実績 . . . . . - 88 -

X 文化事業

1. 基本方針 . . . . . - 92 -  
 2. 文化財の保護・活用 . . . . . - 93 -  
 3. 市史の編集 . . . . . - 104 -

XI 市立博物館

1. 基本方針 . . . . . - 108 -  
 2. 重点目標 . . . . . - 108 -  
 3. 施設の内容 . . . . . - 108 -  
 4. 開館日・休館日 . . . . . - 109 -  
 5. 観覧料 . . . . . - 109 -  
 6. 博物館の収蔵資料 . . . . . - 109 -  
 7. 令和3年度年間事業計画 . . - 111 -  
 8. 令和2年度の活動実績 . . . . - 112 -  
 9. 宜野湾市立博物館の運営に関する  
 基本的方針 . . . . . - 116 -

資料

1. 学校長名等一覧 . . . . . - 119 -  
 2. 学校医・学校歯科医・学校薬剤師  
 一覧 . . . . . - 120 -  
 3. 宜野湾市教育支援委員会委員 . - 121 -  
 4. 宜野湾市学校給食センター運営委員  
 会委員 . . . . . - 122 -  
 5. 宜野湾市はごろも学習センター運営  
 委員会委員 . . . . . - 122 -  
 6. 宜野湾市立中央公民館運営審議会  
 委員 . . . . . - 123 -  
 7. 宜野湾市社会教育委員 . . . . . - 123 -  
 8. 宜野湾市民図書館協議会委員 . - 123 -  
 9. 宜野湾市文化財保護審議会委員 - 124 -  
 10. 宜野湾市立博物館協議会委員 . - 124 -  
 11. 宜野湾市史編集委員会委員 . . - 124 -  
 12. 宜野湾市スポーツ推進審議会  
 委員 . . . . . - 125 -  
 13. 宜野湾市スポーツ推進委員 . . - 125 -



## 宜野湾市の位置と地勢

本市は、沖縄本島の中南部西海岸・東シナ海に面した位置にあり、北に北谷町、東に中城村、北東に北中城村、南に浦添市、南東に西原町と接している。県庁所在地の那覇市より北に 12.4km、沖縄市より南に6km の地点にあり、市内をドーナツ状に国道 58 号線、国道 330 号線が南北に、県道宜野湾北中城線、県道 34 号線が東西にはしり、さらには沖縄自動車道の北中城インターチェンジや西原インターチェンジへもつながる交通上の重要な要所に位置する。

本市の総面積は 19.80km<sup>2</sup>で、東西 6.1km、南北 5.3km の範囲である。地勢は、海岸線の出入りが比較的少なく、珊瑚礁が発達している。地形はおおむね平坦だが、海岸線に対して国道 58 号線以東は台地となっている。市域の中央部と北側部分は米軍基地となっており、その面積は全市域の約 29.4%を占めている。また、河川は宇地泊川、浦添市界に牧港川、北谷町界に普天間川がある。

気候は亜熱帯性で四季を通じて温暖である。春から夏にかけて雨量が多く、梅雨明けとともに長い夏が続く。また、夏から秋にかけて熱帯性低気圧の進路となり台風の襲来が多くなる。

## 宜野湾市の沿革

本市の母体である宜野湾間切は、1671(康熙 10)年に浦添間切から我如古、宜野湾、神山、嘉数、謝名具志川(大山)、大謝名、宇地泊、喜友名、新城、伊佐の 10カ村、中城間切から前普天間(野嵩)、寺普天間(普天間)そして北谷間切から安仁屋をそれぞれ分割し、大川(真志喜)を新設し 14カ村をもって設立された。

1879(明治 12)年の廃藩置県後、沖縄県庁の支庁として中頭郡役所が普天間に新設され、つづいて郡教育部会事務所、県立農事試験場等の官公署が設立されるなど本島中部の政治、経済、教育の中心地として活気を呈していた。

第二次世界大戦においては、本市も壊滅的な戦災を被ったが、野嵩地域が奇跡的に焼失を免れて、戦闘地域住民の収容所となり、そのため他の市町村に先んじて戦後処理作業が行われた。

その後、市内の普天間を中心に都市化が進展し、1962(昭和 37)年 7 月 1 日に市制が施行され、新生「宜野湾市」が誕生した。

市制施行後もなお、米軍基地が市の中央部に位置するため市街地は国・県道沿いにドーナツ状に発展し、特異な形態になっている。近年、那覇市の外延的な拡大に伴い、市街化が進展しつつある。さらに、沖縄国際大学、琉球大学が立地し、沖縄コンベンションセンターが整備されるなど、県内の高次都市機能の一部を担う重要な地域となりつつある。